

## 【お父さんにもらった優しいうそ】

小学校1年生の男の子の作文を紹介します。「心に響いた言葉」がテーマの作文です。作文の題は、「おとうさんにもらった やさしいうそ」です。

ぼくのところにひびいたことばは、「おとうさんは、ちょっと とおいところできごとをすることになったから、おかあさんと げんきにすごしてね。」です。そのとき ぼくは、二さいでした。とても小さかったので ちよくせついわれたのは、おぼえていませんが、いつかくれたときのとうがが おかあさんのスマホにいつでも のこっているの、すきなときに きくことができます。

このふつうにおもえることばが、ぼくのところに ひびいたりゆうは、じつはこれが おとうさんがついた うそだったからです。このことばの一しゅうかんごに、おとうさんは、はっけつびょうで しんでしまいました。そして、このことばを おとうさんがのこしたのは、びょうきがわかって にゆういんした日でした。おとうさんは、あえないあいだに ぼくがかなしまないように、わざと うそをつきました。うそは ふつうよくないけど、これは おとうさんが ぼくのためについてくれた やさしいうそだとおもいます。このことばを どうができくと、おとうさんに あってみたくて すこしかなしいきもちになります。でも かなしいだけじゃなくて、ぼくを かなしませないように うそをついてくれた おとうさんのやさしさをおもって「がんばろう！」とおもえます。おとうさんがしんでしまったことは 知っているけど、おとうさんのうそが ほんとうになって、いつか よるおそくに ドアのまえで「ドアをあけて。かえってきたよ。」といっているおとうさんに あいたいです。こうおもえるのも、おとうさんのやさしいうそのおかげです。

ぼくから おとうさんに つたえたいことがあります。「おとうさん、うそがばれてるよ！だって まわりに びょういんのとうぐが いっぱいあるし、おとうさんが よこになっているし、めから なみだが ちょっとだけでているし、こえがさびしそうだから。」でも ぼくは、だまされているふりを しつづけようと おもいます。

おとうさんが やさしいうそをついてくれたおかげで、ぼくのころは つよくなれています。これからも おとうさんのことばをまもって、おかあさんとげんきに すごしたいです。おとうさん、やさしいうそをありがとう。